

番 号	21請願第4号 (厚生付託)
受理年月日	平成21年6月16日
件 名	「家庭ごみ有料化の実施」凍結を求めることについて
提 出 者	三鷹市在住 ごみ有料化。納得できない！三鷹市民の会 飯沼久美子 三鷹市在住 あらぐさの会 長谷川茂雄 三鷹市在住 アンポをつぶせ ちょうちんデモの会 谷島 光治 三鷹市所在 新婦人の会 栗原 寿子 三鷹市所在 東京土建三鷹支部主婦の会 坂井 昭子 三鷹市所在 三鷹民主商工会 斎藤 律子 三鷹市在住 夜まわり三鷹 荒瀬 礼子 ほか 1,521人
紹 介 議 員	野村 羊子
要 旨	
<p>〔請願項目〕</p> <p>1 「家庭ごみ有料化の実施」を凍結してください。</p> <p>2 「ごみの減量・資源化の取り組み」は、これまでの市民と市との協働を生かし、それを継続・発展してください。</p> <p>〔請願理由〕</p> <p>アメリカ発の金融危機が日本の経済や社会に大きな影響を与えており、「年越し派遣村」に象徴されるような深刻な事態が起きています。雇用不安と消費不況という経済の悪循環が進む中、私たち市民の生活も不況や将来不安などから大変な苦境に突入しています。</p>	

最も身近な自治体には、こんな時にこそ、住民の生活を守るセーフティーネットとしての役割が求められています。

このような時期に、「家庭ごみ有料化の実施」によってすべての市民に新たな負担を強いることは、市の試算（1世帯年間約5,000円）以上の経済的・心理的負担をもたらします。

本年10月から有料化を実施しなければごみ行政が立ち行かなくなる状況ではありません。加えて、この間の意見を聞く会やパブリックコメントでは不安や疑問の声が多数の市民から出されており、有料化の前にごみ減量のためにやれることはまだあるとの意見も出されています。

環境に配慮したごみ減量・資源化の取り組みは、これまで大きな減量・資源化を達成した市民と市との協働の成果を継続・発展させることで実現できます。

市民生活の苦境に配慮した東久留米市や青森市では有料化の凍結を決断しています。

この間の市民生活をめぐる著しい経済環境悪化を踏まえ、「家庭ごみ有料化の実施」を凍結してください。